

特別企画：熊本県メインバンク調査**肥後銀行が 8 年連続の首位****～ 上位 20 行の顔ぶれ、シェアに大きな変動なく ～****はじめに**

2018年も、マイナス金利による貸出金低下などで、金融機関にとって厳しい経営環境が続いた。上場地銀80行の2018年9月期中間決算では、全体の約7割に当たる55行が減益となった。こうした中、同年には十八銀行がふくおかフィナンシャルグループの傘下に入る形での経営統合が公正取引委員会より正式に認められたほか、2020年には長崎県を地盤とする傘下の親和銀行と十八銀行の経営統合も計画されている。こうした経営の合理化のみならず、各金融機関ではフィンテックなどのIT化の推進、活動基盤の拡大に伴う越境融資など、生き残りに向けた施策が続いている。

帝国データバンクでは、地元における金融機関の存在感を示す一つの指標として、企業側が認識している「メインバンク」を集計し発表している。金融機関同士の貸出競争の激化やマイナス金利政策による収益悪化が叫ばれる中、経営環境は大きく変わりつつある。

帝国データバンク熊本支店では、2018年10月末時点の企業概要データベース「COSMOS2」（約147万社収録、特殊法人・個人事業主含む）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計・分析した。

なお、同調査は2018年3月に続き8回目。

■ 本調査は帝国データバンクが独自に調査・保有している企業概要データベース「COSMOS2」に収録された企業データであるため、各金融機関がメインとして認識する実数と異なる場合がある。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関をメインバンクとして集計した。

調査結果(要旨)

- ☐ 上位 20 行の顔ぶれに変化はなく、順位も大きな変動はない。
- ☐ 全業種で 1 位肥後銀行、2 位熊本銀行の構図は変わらず各信用金庫も一定のシェアを確保。
- ☐ 年商規模別では、規模が大きくなるにともなってシェア争奪が激しい傾向が続いている。

1. 上位 20 行ランキング ～上位 20 行の顔ぶれに変化はなく、順位変動も軽微～

熊本県下の企業がメインバンクと認識している金融機関の 1 位は**肥後銀行**（熊本市）の 12,054 社（シェア 59.1%）で、調査開始以来 8 回連続で圧倒的な首位を堅持している。2 位は**熊本銀行**（熊本市）で 4,002 社（同 19.6%）となり、両行ともに社数を増加させた。なお、上位 20 行の顔ぶれに変化はなかったが、前回 11 位の**福岡銀行**（福岡市）が前回 10 位の**商工中金**（東京都）と入れ替わってトップ 10 にランクインしたほかは順位にも大きな変動はなかった。

■メインバンク社数上位20

順位	取引銀行名	本店 所在地	2018年		2017年	
			社数	シェア	社数	シェア
1 (1)	肥後	熊本市	12,054	59.1%	11,786	59.0%
2 (2)	熊本	熊本市	4,002	19.6%	3,935	19.7%
3 (3)	熊本第一信金	熊本市	893	4.4%	879	4.4%
4 (4)	熊本中央信金	熊本市	644	3.2%	650	3.3%
5 (5)	熊本信金	熊本市	586	2.9%	572	2.9%
6 (6)	天草信金	天草市	403	2.0%	404	2.0%
7 (7)	熊本県信組	熊本市	316	1.5%	303	1.5%
8 (8)	西日本シティ	福岡市	185	0.9%	182	0.9%
9 (9)	南日本	鹿児島市	157	0.8%	159	0.8%
10 (11)	福岡	福岡市	119	0.6%	112	0.6%

順位	金融機関名	本店 所在地	2018年		2017年	
			社数	シェア	社数	シェア
11 (10)	商工中金	東京都	114	0.6%	117	0.6%
12 (12)	みずほ	東京都	92	0.5%	91	0.5%
13 (13)	三菱UFJ	東京都	82	0.4%	86	0.4%
14 (14)	三井住友	東京都	75	0.4%	79	0.4%
15 (15)	農林中金	東京都	46	0.2%	45	0.2%
16 (16)	北九州	北九州市	44	0.2%	43	0.2%
17 (17)	長崎	長崎市	38	0.2%	37	0.2%
18 (19)	菊池地域農協	菊池市	35	0.2%	29	0.1%
19	(19) 球磨地域農協	球磨郡	34	0.2%	29	0.1%
	(18) あまくさ農協	天草市	29	0.1%	32	0.2%

※()内は前年順位

2. 業種別ランキング ～全業種で肥銀がシェア 50%超を維持～

取引先の業種別分析（調査対象 6 業種）においては、前年調査同様に各業種で**肥後銀行**が 1 位を独占している。また、前年調査時から全業種で 50%以上のシェアを獲得しているが、今回もこれを維持している。さらに、**肥後銀行**は製造業、卸売業、小売業、運輸・通信業、サービス業の調査対象の内、5 業種でシェア拡大となった。いずれも設備投資に係る案件が発生しやすい業種と言えることから、これらに強みを活かした展開となった可能性が窺える。なお、**熊本銀行**は前年調査に続いて全業種で 2 位のシェアを獲得し、建設業においてシェア拡大となった。なお、不動産業のみ上位 2 行がシェアを落としており、暫く買い手市場が続いた同業界において 3 位以下の信用金庫や県外金融機関を含めたシェア争いの激しさが垣間見られる。

■業種別メインバンク企業数ランキング(上位10行)

建設

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	3,839	62.6%	62.6%
2	熊本	1,217	19.8%	19.7%
3	熊本第一信金	252	4.1%	4.2%
4	熊本信金	226	3.7%	3.6%
5	熊本中央信金	187	3.0%	3.1%
6	天草信金	125	2.0%	2.1%
7	熊本県信組	77	1.3%	1.2%
8	西日本シティ	49	0.8%	0.8%
9	南日本	45	0.7%	0.7%
10	福岡	16	0.3%	0.3%

製造

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	918	59.5%	59.3%
2	熊本	272	17.6%	18.0%
3	熊本中央信金	56	3.6%	3.6%
4	熊本第一信金	54	3.5%	3.5%
5	熊本信金	31	2.0%	2.1%
6	商工中金	26	1.7%	1.6%
7	西日本シティ	23	1.5%	1.5%
8	三菱UFJ	22	1.4%	1.6%
9	天草信金	21	1.4%	1.3%
10	みずほ	20	1.3%	1.4%

卸売

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	1,109	54.6%	54.4%
2	熊本	447	22.0%	22.0%
3	熊本第一信金	107	5.3%	5.1%
4	熊本信金	60	3.0%	2.9%
5	熊本中央信金	52	2.6%	2.7%
6	熊本県信組	38	1.9%	1.9%
7	天草信金	30	1.5%	1.5%
8	商工中金	28	1.4%	1.5%
9	西日本シティ	23	1.1%	1.2%
10	南日本	21	1.0%	1.2%

小売

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	1,586	54.7%	54.3%
2	熊本	581	20.0%	20.0%
3	熊本第一信金	170	5.9%	5.7%
4	熊本中央信金	140	4.8%	4.9%
5	熊本信金	107	3.7%	4.0%
6	天草信金	73	2.5%	2.7%
7	熊本県信組	67	2.3%	2.2%
8	南日本	26	0.9%	1.0%
9	西日本シティ	20	0.7%	0.7%
10	みずほ	16	0.6%	0.5%

運輸・通信

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	349	51.0%	50.4%
2	熊本	153	22.4%	22.9%
3	天草信金	47	6.9%	6.9%
4	熊本第一信金	28	4.1%	4.3%
5	熊本中央信金	19	2.8%	2.8%
6	熊本県信組	17	2.5%	2.1%
7	熊本信金	14	2.0%	2.2%
8	商工中金	12	1.8%	1.5%
9	西日本シティ	8	1.2%	1.3%
10	南日本	6	0.9%	0.9%

サービス

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	3,322	63.8%	63.6%
2	熊本	939	18.0%	18.0%
3	熊本第一信金	188	3.6%	3.7%
4	熊本中央信金	136	2.6%	2.7%
5	熊本信金	92	1.8%	1.7%
6	天草信金	75	1.4%	1.5%
7	熊本県信組	69	1.3%	1.4%
8	西日本シティ	41	0.8%	0.7%
9	農林中金	39	0.7%	0.8%
10	南日本	36	0.7%	0.7%

不動産

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	590	51.6%	51.9%
2	熊本	279	24.4%	24.5%
3	熊本第一信金	77	6.7%	6.7%
4	熊本信金	47	4.1%	3.8%
5	熊本中央信金	39	3.4%	3.3%
6	福岡	15	1.3%	1.3%
7	西日本シティ	12	1.0%	0.9%
	熊本県信組	12	1.0%	1.1%
9	南日本	9	0.8%	0.7%
	天草信金	9	0.8%	0.7%

3. 年商規模別ランキング ～大規模企業に県外金融機関の攻勢が続く～

取引先の年商規模を6段階に分類した分析でも、前年調査同様に1位肥後銀行、2位熊本銀行の大勢は変わらなかった。

5億円未満については、各段階とも顔ぶれ、順位に大きな変動はなかったが、5億円以上10億円未満の段階では熊本銀行を除くと、商工中金、福岡銀行、みずほ銀行（東京都）などの県外金融機関が0.2ポイント以上のシェア拡大となった。また、10億円以上50億円未満の段階では西日本シティ銀行（福岡市）がシェア拡大によるランクアップ、三井住友銀行（東京都）が前回ランク外からトップ10入り。50億円以上においては、県内地銀上位2行もシェア拡大となったが、鹿児島銀行（鹿児島市）が前回ランク外からトップ10入りとなったほか、トップ10（同率もあり全11行）の内8行が県外金融機関で占められ、前回調査と比較してシェア、順位ともに変動が激しく県外金融機関の攻勢が続いている結果となった。

■年商規模別メインバンク企業数ランキング(上位10行)

5000万円未満

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	4,604	60.6%	60.4%
2	熊本	1,456	19.2%	19.4%
3	熊本第一信金	310	4.1%	4.1%
4	熊本中央信金	261	3.4%	3.6%
5	熊本信金	233	3.1%	3.2%
6	天草信金	173	2.3%	2.3%
7	熊本県信組	148	1.9%	1.9%
8	西日本シティ	48	0.6%	0.6%
9	南日本	41	0.5%	0.5%
10	みずほ	25	0.3%	0.3%

5000万円以上1億円未満

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	2,408	60.3%	59.9%
2	熊本	744	18.6%	18.6%
3	熊本第一信金	206	5.2%	5.3%
4	熊本中央信金	145	3.6%	3.6%
5	熊本信金	129	3.2%	3.2%
6	天草信金	93	2.3%	2.6%
7	熊本県信組	64	1.6%	1.6%
8	西日本シティ	32	0.8%	0.8%
9	南日本	31	0.8%	0.9%
10	福岡	18	0.5%	0.5%

1億円以上5億円未満

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	3,751	58.6%	58.5%
2	熊本	1,312	20.5%	20.7%
3	熊本第一信金	294	4.6%	4.6%
4	熊本中央信金	200	3.1%	3.2%
5	熊本信金	190	3.0%	2.7%
6	天草信金	124	1.9%	1.9%
7	熊本県信組	97	1.5%	1.4%
8	西日本シティ	71	1.1%	1.1%
9	南日本	59	0.9%	1.0%
10	福岡	37	0.6%	0.6%

5億円以上10億円未満

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	591	53.4%	54.1%
2	熊本	263	23.8%	23.4%
3	熊本第一信金	52	4.7%	4.7%
4	商工中金	34	3.1%	2.7%
5	熊本中央信金	28	2.5%	3.0%
6	熊本信金	19	1.7%	1.6%
	福岡	19	1.7%	1.1%
8	西日本シティ	14	1.3%	1.4%
9	天草信金	11	1.0%	0.9%
10	みずほ	10	0.9%	0.7%

10億円以上50億円未満

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	515	54.6%	55.3%
2	熊本	188	19.9%	19.1%
3	熊本第一信金	27	2.9%	2.3%
4	商工中金	21	2.2%	2.6%
5	福岡	20	2.1%	2.4%
6	西日本シティ	18	1.9%	1.7%
7	みずほ	16	1.7%	2.0%
	三菱UFJ	16	1.7%	1.8%
9	南日本	15	1.6%	1.7%
10	三井住友	14	1.5%	1.1%
	北九州	14	1.5%	1.5%

50億円以上

順位	取引銀行名	2018年 社数	シェア	前年
1	肥後	125	47.0%	44.8%
2	熊本	24	9.0%	8.7%
3	みずほ	16	6.0%	6.3%
4	農林中金	14	5.3%	4.8%
5	三菱UFJ	11	4.1%	4.0%
6	三井住友	10	3.8%	4.4%
7	福岡	5	1.9%	2.0%
	商工中金	5	1.9%	2.0%
9	信金中央金庫	4	1.5%	1.6%
10	熊本信金	3	1.1%	0.8%
	鹿児島	3	1.1%	0.4%

4. まとめ

熊本県においては、前年調査に続き、各業種・各規模に関わらず幅広い地盤を持つ**肥後銀行**がトップシェアを握っていることがわかった。総じてシェアの順位に大幅な変動はないものの、年商規模が5億円を超えるとシェア上位10行には県外金融機関のランクインが増加し、シェアの増減も激しく、大口融資に対する競争激化を窺わせる結果となった。

平成28年熊本地震の発生から3年目を迎えるが、発生直後の復興・復旧支援が徐々に落ち着くなかでメインバンクが果たすべき役割は融資にとどまらず多様かつ重要になっている。当面は、地元地銀である**肥後銀行**と**熊本銀行**のトップ2体制が崩れることはないが、広域に店舗展開する県外金融機関が営業エリアや人的資源配置の見直しを目的とした店舗の統廃合と並行して新たな販路拡大を地方に見出すケースも聞かれる。また、ネット銀行など「新形態の銀行」の台頭、フィンテックやAIなどを活用した異業種からの金融業への参入など業界環境の変化は早く、今後はメインバンクとして選ばれるべく企業との関係性構築・深化が一層求められよう。

【問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 熊本支店 担当：徳村 一郎

TEL：096-324-3344 FAX：096-354-4787

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。